

世界とつながる ‘いただきます’

学 校 名：大阪市立生野特別支援学校 指導時数：3時間
名 前：松本 早美（栄養教諭） 対象学年：小学6年生
実践教科：生活単元学習 対象人数：13人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

サモアに行くまで、開発途上国というと「貧しい国」というイメージがあったが、その認識は大きく変わった。経済的に豊かではないが、私が出会ったサモアの人々は皆明るく、笑顔が素敵で、とてもしあわせそうだったからである。一方サモアでは、海外の食文化の流入等により、肥満や糖尿病をはじめ生活習慣病の増加が社会問題となっている。サモアの学校でも食事のバランスや栄養について学ぶ授業が行われていたが、子どもたちの日常の生活実践に結び付けることが難しい指導内容であった。開発途上国であるサモアが、今あるしあわせの価値観や、独自の伝統的な生活のよさを守りながら発展していくためにも、教育が何より重要であることを改めて感じさせられた。

2. カリキュラム

（1）実践の目的・背景

本校は主に知的障害を持つ児童生徒が在籍する特別支援学校である。小学部から高等部まであり、障害の程度は軽度から重度にわたる。ほとんどの児童生徒は家や福祉施設からスクールバスで通学し、放課後にはデイサービス等を利用して施設で過ごすことも多い。

本授業は、生活単元学習という時間を利用して実施する。生活単元学習とは領域・教科を合わせた代表的な指導の形態であり、子どもが自立し、社会生活を送る上で必要となる様々な事柄を体験的・实际的に学ぶために効果的な指導方法として用いられている。

対象の児童は、小学部6年生2クラス全員で児童数は13名である。児童たちはこれまでに海外留学のある先生や、青年海外協力隊でエクアドルでの活動経験のある先生に国際理解に関する授業を受けていて、世界の国旗やあいさつを覚えている児童もいるなど、世界への関心が高まっている。また児童たちは学校給食が大好きであり、日めくりの給食カレンダーを利用して、毎日食べもののクイズをしたり、食に関する授業を受けたり、食への興味・関心が高い。給食の時間には世界の食文化について話をすることがあるが、日常生活で世界について学んだり文化に触れたりする機会は少ない。

そこで本授業では、食を中心に私がサモアで見たことや感じたことを児童たちに伝えることで、世界とのつながりを実感することを目的とした。また世界には色々な人々がいて、世界中の人々が協力して生きることの大切さを伝えたいと考えた。1学期の授業では、日本の食文化を紹介する絵を1人1枚ずつ描いてもらい、その絵をサモアの小学校に持っていくことで、児童とサモアの子どもたちとのつながりを実感し、楽しみながら世界について学ぶことができるようにした。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアの生活を知る ＊サモアの子どもたちと友達になる。	● サモアの子どもたちの写真を見る。 1 学期に児童が描いた、日本の食事を紹介する絵がサモアの子どもたちに届いたことを伝える。 ● サモア〇×クイズをする。 ● サモア語であいさつを練習する。 ● サモアのダンス・歌の映像を見て、リズムに合わせて体を動かす。	● 児童の描いた絵 ● 写真 (パワーポイント) ● 世界地図 ● サモアの衣装 (ラバラバ) ● 映像 (パワーポイント)
2 時限目 サモアと日本の食事の違いを知る ＊サモアの肥満の問題から、日本の食生活を振り返る。	● 写真のスライドを見せながら、サモアの食事の様子、食材を紹介する。 ● 〇×クイズ サモアの子どもたちの昼食を知る。 ● 日本の給食と、サモアの昼食の食材を三色栄養群に分け、違いを知る。 ● サモアに肥満の人が多くいることを知る。 ● サモアの友達へのアドバイスを考える。	● 写真 (パワーポイント) ● たべものカード ● 3 つのグループの食べ物 (掲示物)
3 時限目 サモアの食事・世界の食事を知る ＊世界の食の問題を知る。	● 〇×クイズ ものランゲージ、フォトランゲージ サモアの食事の仕方を知る。 ● サモアの自給自足の食生活について知る。 ● 給食が出来上がるまでの様子を知る。 ● 世界の食風景を写真で知る。 世界には飽食と飢餓の問題が起こっていることを知り、世界の問題に目を向ける。	● 写真 (パワーポイント) ● サモアのうちわ ● ココナッツ ジュース ● バケツ ● ペットボトル ● 写真集 (地球のごはん)

3. 授業の詳細

1 時限目：サモアの生活を知る

ねらい…サモアという国について知る。

サモアについてもっと知りたいという気持ちを持つ。

◆内容◆

①サモアの子どもたちの写真を見る。

世界地図を示しながら、サモアに行ってきたことを伝えた。
そして、1 学期に児童が描いた、日本の食事を紹介する絵がサモアの子どもたちに届いた写真を見せた。



日本の食べ物を紹介

👉👉がポイント!

児童たちが描いた絵を見て、サモアの子どもたちが日本ことをもっと知りたい、友達になりたいと言っていたことを伝えた。児童はサモアとのつながりを感じ、「お友達になりたい!」と、これからの話に気持ちを高ぶらせていた。



サモアに届いた私たちの絵

②サモア〇×クイズをする。

国の大きさ・風景・動物・民族衣装（ラバラバ）・家・風呂・乗り物など。サモアの人々の生活について知る。

👉👉がポイント!

視覚からの情報が優位である児童が多いため、写真やイラスト、映像を多く用いた。ゲームでは、民族衣装（ラバラバ）を実際に着るなど体験活動を盛り込んだ。また〇×ゲームは教室で〇と×の場所を区切って移動し、体を使って楽しみながら活動できるようにした。

児童の
反応

クイズでの写真では、制限時間ぎりぎりまで〇と×の場所の移動を迷ったり、映像や写真をよく見て多くの質問をしたりしていた。バスが満席になったらどうするか?というクイズでは、「天井にのる!」というように、今までに学んできた知識を思い出しながら積極的に発言する様子が見られた。



積極的に質問する児童



ココナッツジュース



サモアの朝ごはん



サモアの食事風景

③サモア語であいさつを練習する。

サモア語で“こんにちは”を意味する「タロファ」のあいさつを、サモアの子どもたちが実際に話す映像を見せた後、全員で練習した。

児童の
反応

あいさつを練習しようというと、「ニーハオ!」や以前習ったエクアドルのあいさつ「オーラ!」など、世界の言葉がどんどん児童から出てきた。サモアのあいさつは映像で流れることがとても興味深かったようで、「もう一度見たい!」と映像を繰り返し見て、一生懸命練習していた。

- ④サモアのダンス、歌の映像を見て、リズムに合わせて体を動かす。
サモアのダンス、子どもたちが歌う映像などを見て、自由に歌ったりおどったりする。

児童の
反応

児童は歌やダンスが大好きで、映像を見ると自然に体を動かし始め、とても楽しそうに思い思いに体を動かしていた。授業の最後に、「サモアの人々と友達になってくれる？」と聞くと「おともだち！」といって、サモアに親近感を抱いていたようであった。



サモアのリズムにのってダンス！

2 時限目：サモアと日本の食事の違いを知る

ねらい…サモアと日本の食文化の違いに気付く。
サモアの肥満の問題を知り、日本の食生活を振り返る。

◆内容◆

- ①写真を見せながら、サモアの食事の様子・食材を紹介する。
サモアの伝統料理であるウム料理や、日常の食事を写真で紹介しながら、日本では食べられていない食材（タロイモ・ブレッドフルーツ・緑色のバナナ）の説明をする。

児童の
反応

児童たちは、初めて見るタロイモやブレッドフルーツの写真に興味津々で、「さつまいもみたい」「やまいもみたい」「キウイみたい」など知っている色々な食べ物に例えていた。また、普段発語の少ない児童も「切ったらどんな色？」「スープには何が入っているの？」などと質問しており、大好きな食べ物の話にわくわくしている様子だった。

- ②日本の給食と、サモアの昼食の食材を三色栄養群に分類し、違いを知る。
児童がたべものカード（食材のイラストや写真に名前を書いたもの）を黒板に貼る活動をする。まず、給食に入っている食材をそれぞれ赤・黄・緑のグループに分類し、3つのグループがそろってバランスの良い食事であることを復習する。次にサモアの食事を同様に分け、みどりのグループが足りないことに気付く。そして、野菜の値段がとても高いことを知らせる。

児童の
反応

児童たちは、たべものカードを黒板に貼るという活動をとっても楽しんでいった。タロイモはどのグループに入るか迷った児童に、「おいもさん！」と黄色のグループのさつまいもの絵を指さして、他の児童が教えていた。初めて見るサモアの食材も、カードを用いて写真と文字で示すことで、身近に感じられたようだった。



たべものカード

- ③サモアに肥満の人が多くことを知る。
サモア人の写真を見て、肥満の人が多くことに気付く。インスタントラーメンやファストフードがごちそうであること、スーパーマーケットでは外国から輸入された食べ物が多く売られていること等を紹介する。また、運動など体をあまり動かさない生活習慣があることも知る。

④サモアの友達へのアドバイスを考える。

サモアの子どもたちに、肥満を防ぐためにできるアドバイスを考え、発表し合う。

👉👉がポイント!

児童からは「ラーメンは食べすぎない」「運動をする」「いろんなものを食べる」「好き嫌いはだめ」など、様々なアドバイスがでてきた。サモアの人たちの食生活を知ることを通して、自分自身の日々の食生活を客観的な視点で振り返ることができた。



学校での昼食



値段の高い野菜



サモアの肥満問題

3 時限目：サモアの食事・世界の食事を知る

ねらい…サモアと日本の食事がどのようにできるかを知る。
世界の食の問題について知る。

◆内容◆

①〇×クイズ

「サモアでは家族みんなでごはんを食べる?」というクイズをした後、サモアの食生活を写真で紹介する。ものランゲージでは、ハエをはらうためのうちわを何に使うものか考え発表し合う。

生徒の反応

▶家族一緒にごはんを食べないという写真を見て、児童はとても驚いていた。ものランゲージで使用した実物のうちわを見せると、触ってあおいでみる、匂いを嗅ぐなど体全体で感じ取っていた。ものランゲージでは「ごはんを冷ますためにつかう」という意見や、「これは何からできているの?」という質問もでた。



ものランゲージ「うちわ」

②サモアの自給自足の食生活について知る。

ココナッツジュースやブレッドフルーツを収穫し、調理する様子を画像や写真で紹介する。また、ウム料理に使われる豚が調理される過程を説明し、サモアの伝統的な食生活は自給自足で成り立っていることを知る。ココナッツジュースを飲み、サモアの食生活を体験する。

生徒の反応

▶サモアでよく飲まれているココナッツジュースを飲むことで、五感を使ってサモアの食生活を感じ取れるようにした。子どもたちからは、「砂糖がはいっているみたいにあまい」「クッキーみたいな味がする」と初めての味に驚いている様子だった。生きている豚を調理する様子の写真を見せると、「かわいそう」と目をふさぐ児童もいた。水汲みをバケツに入れた水を運ぶことで体験し、その大変さを実感していた。高い木に登りココナッツの実をとる様子の画像には興味津々で、「もう一回見せて」と夢中になっていた。